

会 議 録

会議の名称	平成27年度第7回富士見市社会教育委員会議
開催日時	平成28年2月15日（月）午後7時00分～9時00分
開催場所	教育委員会 会議室
出席者	本間雄一委員、武田秀規委員、長ヶ原美博委員 吉田廣子委員、小森重紀委員、搦木道代委員 事務局（主査）
欠席者	田尻 円委員、関口敬氏委員、岩村沢也委員、千葉純平委員
公開・非公開	公開（傍聴人 0人）
会議次第	1. 協議事項 （1）第14回富士見市市民意識調査報告書についての意見交換 （2）生涯学習5委員合同研修会・新年交流会について 2. 報告及び連絡事項 （1）入間地区社会教育協議会 第5回社会教育委員部会 （2）平成27年度富士見市人権尊重教育講演会
会議資料	定期刊行物
会議録確認	本間雄一委員

会 議 内 容 (要点記録)

◇ 開 会

○副議長あいさつ

1. 協議事項

(1) 第14回富士見市市民意識調査報告書についての意見交換

【事務局】

本日は意識調査を基に自由な意見交換を行う予定。関口委員が意識調査を基に資料を作っていたので目を通していただきたい。

【議長】

それでは順番に発言してもらいたい。

【委員】

1点目は、子どもも大人も自己肯定感が低いというのもテレビを観て知った。自己肯定感を高める必要があると感じた。

2点目は、障がいを持った子どもは特別支援学校に通っているため、近所に同級生・顔見がおらず、地域デビュー出来ていない状況がある。地域デビューできるきっかけづくりが必要であると感じた。

【事務局】

自己肯定感という言葉が出て来たのはいつ頃なのか。

【委員】

ここ20年弱。自殺者3万人時代が続いて、子どもも大人も自分を好きになれない、親を好きになれないという事が原因だと言われていた頃に出て来た言葉。勉強以外でも自分が得意な事があればそれが自信に繋がるのだがそこが育っていない。

【事務局】

では調査開始時からずっと自己肯定感が低いという事か。

【委員】

そのとおり。日本は特に自信を持っているというのが少ない。

【委員】

20年位前だと、ちょうどゆとり世代が小学校に入る頃。やはりその世代と、その親の世代とは学校での授業や環境も違うのか。

【委員】

言葉だけが先行している。小学校の6年間でやる事に変化は無かった。

【委員】

今の親が子どもを叱る時の言葉にビックリする時がある。親とか家庭環境も自己肯定感に影響しているのだろうか。

【委員】

仕事等で25～26歳くらいの人と一緒にいる時がある。「自分はゆとり世代だから」という言葉を良く聞く。「ゆとり世代だから出来ません」という免罪符になっているのではないか。「ゆとり世代」と世間から一括りで見られている現状は可哀そうだと思う。

【委員】

自分に自信を持たせていないからだと思う。

【委員】

仕事やPTA等で色々な人と関わるが、30代後半と40代半ばの人でもギャップを感じる。バブルを経験している方が「やれば出来る」という自信があるように感じる。逆に就職氷河期を経験している人は、面接で何度も失敗したりと、それが自己肯定感にもつながっているのではないだろうか。

【委員】

日本人は民族的にも「自分は出来る」と思う人が少ないのかも。外国は「自分が」と考える人が多いらしいが。

【委員】

先日、テレビでドイツの教育について取り上げていた。なぜ戦争に至ったかを子ども達に教えていた。この資料では自己肯定感をアメリカ、中国、韓国と比べているが、日本は敗戦国なのでドイツやイタリアと比較したデータも見てみたい。

【副議長】

報告書では社会教育に関心が薄いを感じる。コミュニティ、町会、学習機会について情報が少ないという意見が出ていた。

自己肯定感に関しては、幼いころに親や周囲の人から十分な愛情を受けて育つことによって「自分は大切な存在」と感じるらしい。今はそれが足りないのを感じてしまう事がある。

自分もバブル世代で、就職で困る事はなかった。やればやるだけの成果が出た。現代は社会情勢も雇用問題も不安定で不安感が蔓延している。守ってくれる存在の大人がそうであれば、子ども不安になるのではないか。

ゆとり世代と言われる子ども達も、一生懸命頑張ってきたはず。「ゆとり世代」はマスコミや周囲の大人がつけたレッテルである。

子どもの事で言えば南畑公民館だよりは、昔から地域の子どもの載っている。寄稿等の匿名はなし。他の公民館だよりでは子どもが載ることはそんなにない。子どもを地域で育てる、同時に地域の子どもの達を確認しながらそれぞれが繋がっている。

【委員】

生活のゆとりがないと、社会教育に関して考えるのは難しいのではないだろうか。公民館も現役の父親世代のサークルが少ないのはそのため。報告書もゴミ問題、健康問題、雇用問題など、生活に直接関わる事が関心高い。

【委員】

青少年の健全育成・いじめ防止対策に対する関心度が低いのは、それだけ認知されていないのだと思った。青少年育成市民会議の活動も資金は集まるし、事業もたくさんやっているが、一部の人しか集まらない。

南畑地域は、それぞれの家が離れているから子どもの安全に関しても関心が高く、新密度も高く感じる。みずほ台等と比べると地域性の違いがある。

【委員】

一番ショックだったのが「男女共同参画の社会づくり」の満足度、関心度が低いというところ。私は父が他界したため母子家庭で育った。両親がいる世帯が母子世帯になると、収入面でも1/2以下になる。すると子どもが塾に行けなくなり、進学する学校の予先を下げることに繋がる。男女の賃金格差の問題は、男女共同参画に対する意識が上がらなければ解決出来ない。福祉に手厚いといいながらこれだけ関心度が低いのはショックだった。どの家庭も何かあった時の事を考え生命保険には加入しているが、社会の仕組みとしての男女共同参画に対して意識が低いのは、認識にズレがある。男女共同参画を説いている方は女性史研究の方が多い。女性の自立を説く方は多いが本当の意味での男女共同参画ではない。

【委員】

市で行っている男女共同参画の講演会でも男性が女性を助ける、というのが多くて賃金格差の事などには触れていない。

【議長】

一つ目は、PTA、学校評議委員、学校運営支援者協議会、地域子ども教室等、色々な会議に出ているが、個人的に感じるのは、子どもはほとんどが家庭環境で決まってくる。家庭環境に影響されている。

もう一つが道徳の問題で、あいさつなども充実させているが、あいさつをするとこんなに良い事があるともっと子ども達に教えてあげなくてはいけない。

学力ばかりが評価されがちだが、それ以外に能力を持った子どもはたくさんいる。あいさつが出来たり、気が利いたり、学力以外のところを褒めてあげると、それがその子の生きがいになったりする。学力や部活動は経済格差や家庭環境に影響する。部活動をやりたくても出来ない子どももいる。

先日、図書館協議会に出席した時に、居場所がなくて図書館に来ている子ども達にもう少し暖かい目を向けてあげられるような図書館になれば良いと感じた。

【委員】

先日、みずほ台小学校でかるた大会をやったが子ども達も大変喜んでいて。その中で6年生が指導したりしていた。そういった活動が積み重なって得意な事が見つかるきっかけにもなるのではないだろうか。

【議長】

そのような話を聞くとP60の「子育て支援環境の充実」で満足度が下がっているのが理解できない。もしかしたらその裏に男女共同参画という原因があるかもしれない。

【委員】

貧困を脱却するのにどのようなルートがあるかというところ、子どもが良い就職先を行ってくれるルートか母親が賃金の高い仕事に就いてくれるか、結局はこの2つのルートしかない。

【委員】

小学生を育てている親の意見だと、親が一番心配するのはどの高校に入れるのか。ただし、それは自分の子どもを評価するものがなくて、結局学力であったり学校名であったり、たとえば中堅の学校に行ってもトップクラスかもしれないし、すごく評判の良い学校にいても一番下かもしれない。子どもが苦勞して自己肯定感や自尊心を傷つけてまで3年間通うのであれば中堅の学校に行ったらという思いはある。

【委員】

P103の男女共同参画の社会づくりの回答だが「仕事と生活の調和がとれない」「男女共同参画の学習機会が少ない」は男性側の意見で、「家事等への女性の負担が多い」という女性の意見がそのまま出ていて、それこそ男女共同参画の意味が分からない人が多い印象。

30～40代は子ども事、家庭の事で手一杯で外の事に目が行きづらい世代。70代以上の人に満足度が高いのは気持ちにもゆとりが出ているからだと思う。生活で手一杯だと、働きたくても働けないという母親もいる。働き手のニーズも色々変わってきている。

【委員】

根本的な解決は会社側が譲歩しない限り中々実現しない。それはこの国全体に言える事で、だから女性の離職率が高い。

【委員】

行政の進める部分と実際の部分の格差がある。一億層活躍社会というが、根本の部分や社会はどうなっているの？市がどうしようと言っても無理な事。国レベルで動かないとどうしようもない。

【委員】

女性が輝く社会って、ではどうやったら輝いているように見えるのか？働いている家庭、働いていない家庭、家庭の中でそれぞれ違って決められない。

【委員】

自分が輝いていると思えば良い。それが自己肯定感につながっていく。

【副議長】

市が男女共同参画の設問を設けた意味は、これに関する施策の評価をしてほしいという事か？

【事務局】

男女共同参画という取り組みは以前から行っている。

【副議長】

それは法律が決まったため各自治体でもやりなさい、という事だと思うが、講演会やセミナー以外でやっている事はあるのか？経済的な問題とか雇用の問題とかで市が取り組んでいるという事か？

【委員】

男女共同参画推進会議はそこまでいかない。男女共同参画というものはどういうものか、どうしたら良いかなどを大学の先生を招いてやっている。

【委員】

ある方が子どもを面倒みてくれる人がいないため結婚を諦めた。仕事を続けるためにはそういう選択をしなければならないのかと思った。

【議長】

市の男女共同参画に関する考え方等があれば、資料や情報を提供していただきたい。

【副議長】

この協議の着地点をどうするか。雇用や少子化の問題であれば、家庭はどうあるべきか、そういうところも見据えながら、話をしたほうが良い。

それより経済格差とか貧困率の話であれば、富士見市の中で片親の家で子どもを育てている家がどれくらいあるのか、割合で良いのだが、例えばそういう数値とか、生活保護とかそういう支援を受けている家庭がどれくらいあるのかとか、児童数、生徒数に対してですね、例えばそういう切り口もあるのかなと思った。

【委員】

生活保護受給者に占める母子家庭の数ってどれくらいなんだろう。富士見市の生活保護受給者のうちネックになっているのはどういう人達なのだろう。

例えば地域でどのような地域に固まっているのだろうかとか、本当はまんべんなくちらばってなくてはいけないのだけれど、そういうのも見てみたい。

【副議長】

ここから掘り下げるのだとすれば、何を調べたらもう少し詳しく分かるか。このデータだけではちょっと見えにくい。これを補うような資料があると良い。

【委員】

子どもに対する自己肯定感の調査はやっているのか。

【事務局】

教育相談室で親子のそれぞれの意識に関する調査をやっているので、確認してみる。

【委員】

一番関心があるのがごみの減量化と資源化というのがびっくりした。

(2) 生涯学習 5 委員合同研修会・新年交流会について

【委員】

私がいたテーブルでは年 2 回くらいあってもいいのではないかと意見が出た。

【副議長】

準備が大変なので研修会は交流センターでやって懇親会は居酒屋でも良いのではないか。

【議長】

2 委員会だけの報告ではなくて 5 委員会すべてからの報告と意見交換で良いのではないか。その後には有志だけで懇親会でも良いのではないか。

【副議長】

教育委員が何をやっているのかも聞きたい。

【委員】

どういう方がいるかが良く見えて良かった。

【副議長】

例えば、図書館が子どもの居場所になり得るといった話等について各審議会で意見交換が出来る場になるのではないだろうか。

2. 報告及び連絡事項

(1) 入間地区社会教育協議会 第 5 回社会教育委員部会

※委員より資料に基づき報告

(2) 平成 27 年度富士見市人権尊重教育講演会

【委員】

障がい者へのサポートについて、理解していても実践出来ていない事に気が付いた。白杖を上にあげている方は SOS のサインであるということを知った。自分の幸せと共に相手の幸せも考える事が大切だと感じた講演会だった。

(3) 地域や所属団体などについての情報交換

【委員】

社会福祉協議会でオレンジ色のバッジを配っている。それは障がい者へサポートしますよ、という目印のバッジ。

※「あいサポーター研修」を受講し、障がいについて学び、正しい知識を持ち障がいを持つ方が困っているときに、手を差し伸べることが出来る方の目印として配布している。

3. その他

次回以降の会議日程

第8回会議

日程：平成28年3月14日（月）午後7時～

場所：教育委員会 2階 会議室

4. 閉会

○副議長あいさつ

(閉会)